



## 【自主学習に取り組みます】

教科や学年によって様々な方法で自主学習に取り組みます。その中で漢字の学習を例に自主学習への取り組み方を紹介します。

### 4年生から6年生までは同じ方法で漢字を学習します。

**け 計画** 一週間でドリルの1ページ分を覚える方法を計画します。

〈自主学習の方法は自分で選びます。〉

テストまでの課題をどのような方法で、いつどれくらいの時間をかけて学習するかを自分で考えます。子どもが考えた計画に先生は注文をつけません。また、子どもによってその量に差があることは当然です。例えば漢字ドリルで書き取りを毎日する子もいれば、タブレットだけを使ってテストの前日だけ学習する子もいます。

**テ テスト** 一週間後に1ページ分のテストを学校でします。

〈テストの結果が重要です。〉

自主学習をどれくらいどんな方法でおこなったかがテストの結果となって表れます。結果は児童本人がうけいれます。保護者や先生が結果をみて批判することはしません。

自主学習をおこなったかどうかは自分で管理します。「自主学習やらなきゃだめでしょ」という親や先生の声かけは禁句です。やるかやらないかは本人の判断にゆだねます。ただしテストの点数は成績に反映されます。

**ぶ 分析** テストの結果をふりかえり、全部を覚えられる方法を考えます。

〈なぜテストの結果が良くなかったのか、あるいは良かったのか考えます。〉

テストの結果が良くなかったとしたら、それは自分で考えた自主学習の計画に課題があります。例えばスマホが気になって計画通り出来なかったのであれば、集中して学習に取り組むにはどうしたら良いか自分で考えます。「やってないから、出来なかったじゃないの！次からきちんとやりなさい」という親や先生の声かけは禁句です。

**れ 練習** 全部を覚え、つぎのテストの計画をたてます。

〈分析した結果をもとに自主学習に取り組む〉

テストで出来なかったことを学習し直す。つぎの課題に向けて計画を立て、自主学習に取り組みます。分析の結果をいかし、学習方法をみなおしてつぎの課題に向けてとりくみます。

このように、家で学習に取り組むことを子ども自身が考えます。テストの点が取れなかったとしたら、家庭学習に取り組めなかったことを批判するのではなく、どうしたらつぎのテストで点が取れるようになるか考えることが大切です。このときは先生や友人の考えや方法も参考に出来ます。

この方法は漢字を覚えるだけでなく、すべての自主学習にあてはめておこなうことが出来ます。子どもたちが自分で目標を持ち、自分で計画を立て、自主的に学習する力を身につけることを目指しています。学ぶ方法を学んでほしいのです。

## 出欠席についての確認事項

○欠席や遅刻をする場合は**8時20分**までにはテトルに入力してください。体調不良の場合は熱や咳などの症状を記入していただくようお願いします。

○出席停止かどうかは病院で判断されることなので、**病院**で出席停止の診断が下った場合はそのように入力してください。

○学校への連絡はテトルでおこないますが、**分団の班員**に朝登校するかどうかを直接伝えてください。

○**暴風と暴風雪警報が朝6時以降**に出ている場合は休校になります。大雨や大雪はその状態に応じて学校ごとの判断になりますが、各ご家庭の判断で欠席させても良いです。

○**8時5分**に昇降口の扉を開けますのでそれよりも早く登校しないようにしてください。

## 5月の予定

短：短縮日課 13：05下校

6限：3～6年は6限

月	火	水	木	金	土	日
			1 6限	2	3 憲法記念日	4 みどりの日
5 こどもの日	6 振替休日	7	8 短 家庭訪問① 歯科検診 13：05下校	9 短 家庭訪問② 耳鼻科検診 (135年) 13：05下校	10	11
12 短 家庭訪問③ 13：05下校	13 短 家庭訪問④ 13：05下校	14 短 いきいき教研 13：05下校	15 6限 遠足予備日	16 内科検診	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26 1・4年 心電図検査 交通安全教室	27	28 検尿提出	29	30 プール掃除	31	